

style

2

緑と鳥の回廊と 水の縁をめぐる



緑をめぐる見学会の最後にNEXT21の屋上を訪問(2008年4月)

上町台地に点々と連なる緑は、遥か遠い昔から受け継がれてきた、いのちの回廊です。身近なまちの樹木と鳥たちの姿を追って、悠久のいのちのつながりをたどります(5)。

身近な緑との交わりは、上町台地に暮らす醍醐味です。ちょっとした工夫で、またたく間に日常の楽園となって素敵な時間を与えてくれる、とっておきのコミュニティグリーンを探訪します(6)。

暮らしを縁取る多彩な樹木や緑地、いのちを育ててきた上町台地は、数々の谷筋が刻まれ、大小の池が点在し、湧水に恵まれた、水の都・大阪の原点でもありました。水とともに生きてきたまちの記憶、台地を潤す水、脈々とつながる人、水と生きるまちへの水先案内でたどります(7)。

(5) ウィンドウ・エキジビション04「緑と鳥の回廊、上町台地」(2008年1月21日～5月9日 ※5月16日まで展示延長)、(6) ウィンドウ・エキジビション11「日常の楽園 上町台地コミュニティグリーン紀行」(2010年6月1日～9月10日)、(7) ウィンドウ・エキジビション14「上町台地・水先案内」(2011年7月4日～11月11日)をもとに構成。

style 2 緑と鳥の回廊と水の縁をめぐる

1 緑と鳥と いのちの回廊をたどる

野鳥は緑が大好きです。都市化した大阪のなかであって上町台地は緑が多く見られる地域です。また、緑の種類やそのあり方も多様です。どんなところにどんな緑があるか、マップを見て訪ねてみれば、さまざまな野鳥に出会えるかもしれません。

comment

NEXT21と緑の回廊

NEXT21は、南北に細長い上町台地のやや北寄りに位置しています。この台地には、北に大阪城公園、南に天王寺公園や四天王寺の大きな緑地があります。また、松屋町筋に沿って天王寺七坂界隈と呼ばれるところにも多くの寺院に挟まれながら、崖地の緑が帯状に連なっています。また、上町筋を軸にして、東西に街区公園や多くの教育施設(学校群)の緑が散在しています。そして、街中には、大きな緑陰樹や庭先の草花の鉢などが見かけられます。これらの緑が南北につながって「緑の回廊」をつくっています。

NEXT21は、このような大きな緑から小さな花や緑までを含めて密接につながり、ネットワークをつくっています。特に、NEXT21の立体的に構成された花と緑は、大阪城公園や天王寺公園などを生育圏とする野鳥達が休息や採餌ができる重要な場として、その役割は大きなものです。また、蝶などの昆虫にとっても屋上にあるミカンなどの柑橘類が繁殖に大きな役割を果たしています。

NEXT21は、大阪城公園の緑と比べると小さな点でしかありません。しかし、上町台地にある緑のネットワークの中で暮らす野鳥などの生態系をしっかりと支える役割を果たしています。また、町並みに立体的な花と緑が季節感や潤いを感じさせる役割も果たしています。これからも、近隣の人々に愛され育てられることでその役割を果たせるのです。

江木 剛 吉
(株)アトリエーツー

NEXT21を訪れた鳥たち

NEXT21に飛来した野鳥と出現した季節

時期	種名	出現状況
1年を通して周辺に生息	ドバト キジバト ヒヨドリ シジュウカラ メジロ スズメ	毎日 毎日 毎日 数日ごと 数日ごと 毎日
主に冬の間に、周辺に生息(1~3月)	ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス	冬季、数日ごと 冬季、数日ごと 冬季、数日ごと 冬季、数日ごと
春と秋の渡りの時期に一時的に滞在 春(4~5月) 秋(9~10月)	モズ アカハラ メボソムシクイ キビタキ オオルリ	10月 4月 4、5、9月 9、10月 4、9月
近隣の緑地や河川に生息	コサギ、アオサギ、コゲラ、アオジ、カワラヒワ、マヒワ、ハシボソカラス	

NEXT21全景



NEXT21には、これまでに22種類の野鳥や17種類の蝶類、セミをはじめ多くの昆虫がやってきました。



空からみた大阪城公園(写真提供:大阪市)

comment

大阪城公園は鳥たちの博物館

空を飛ぶ鳥たちの目から見ると、大阪城公園は、きっと都会の海に浮かぶ緑の小島に見えるだろうと思います。秋から冬、春から夏と、日本に向かって飛来してくる多くの渡り鳥たちは、長い旅の途上で、この緑を見つけて羽を休めに降り立ちます。

このためか、大阪城公園で年間に見られる野鳥の種類は目立って多く、私自身もこれまでの十数年間に約150種類を確認しています。

ここは言ってみれば野鳥の博物館です。冬季にはお堀にカモ類などの水鳥がやってくるし、春になると小鳥たちが樹間で飛び回ります。水辺では、時にはきれいなカワセミの姿も見られます。

しかも、鳥によっては一年の間のある時期にだけしか滞在しないこともあって、その様子は常に変化に富んでいるのです。つまり、毎日が出会いと別れの繰り返しで、その楽しみに私は魅せられて、大阪城公園に通う日々を過ごしています。

元山 裕 康
トリミニスト

暮らしの中で出会う鳥と緑

都心でも聞けた ウグイスの美声



酒向八智代さん(喫茶上町)

中央区上町に2007年春、小さなカフェを開きました。オープン間もない頃、どこからともなくウグイスの鳴き声が聞こえてきました。「まさか、まちの真ん中で?」と思いましたが、建物の裏から何度も聞こえてくる鳴き声は、紛れもない「ホーホケキョ」。ビルや家が建ち並ぶまちなかで、どうやって暮らしているのでしょうか。

以前は空堀商店街の近くにある、古い家屋に入っている雑貨屋さんに勤めていましたが、ウグイスの声は聞いたことがありませんでした。小さな庭には木々もあって、何種類かの鳥は来ていたようです。

※ウグイスはNEXT21への飛来も確認されています。また、天王寺区南部の五条界隈でも春先にはウグイスの鳴き声がよく聞こえるそうです。

暮らしの目線からも見える 上町台地の野鳥たち



Y.Kさん、Y.Sさんご兄弟(中央区船越町)

営んでいる米屋の店先には昔からスズメが集まりますが、いつもいるのではなく、配送のトラックが来ると集まってきます。どうもトラックの姿形を覚えているようです。近くには「スズメのお宿」の木もありましたが、枝を短く刈り込まれました。

ハトの姿は減りましたが、カラスは朝早くから鳴いています。どうも生ゴミを狙っているようです。くちばしが黄色いムクドリも増えました。

配送中もいろいろな鳥を見かけます。大阪城北側の寝屋川の川岸にはアンテナが立ち並んでいるところがありますが、そこでは灰色のサギがアンテナに擬態して、魚を狙っています。道頓堀川の橋の欄干では、毎冬カワセミが留まっているのも見えています。

子どもたちがセミ捕りをして、店先にスズメが集まる様子に、引越してきた方からは「まちなかの感じがしない」と言われました。

商店街でのツバメのヒナ 救出作戦



宮崎昌久さん(中央区谷町7丁目)

春になれば毎年ツバメが帰ってきますが、空堀の商店街でも店先やアーケードにツバメの巣があり、初夏には人通りの多い商店街のなかをツバメが器用に何羽も飛び交っています。

ある初夏の頃、アーケードの上の方のツバメの巣からヒナが1羽落ちそうになっているのを見物客や店主が見つけた。巣の材料に引っかかっているようで、下まで落ちてはこないのですが、落ちかかっているため、エサも食べられないようでした。みんなで近くの消防署に相談に行ったところ、なんとはしご車で救出に来てくれました。うまくアームを伸ばしてヒナは救い出されましたが、残念ながらすでに弱り切っていました。

付近は見物人でいっぱいになりました。昔ながらの近所づきあいも残る、人情ある下町ならではのエピソードとして今も覚えています。

鎮守の社は 野鳥の子育て場所



鈴木伸廣さん(玉造稲荷神社禰宜)

玉造稲荷神社には枝ぶりも良いご神木や木々がたくさん植わっており、一年を通して鳥の鳴き声が聞かれます。雨風が強かった次の日には、境内に鳥の巣が落ちていたこともあり、初夏には卵が落ちていたときもあります。また、冬に葉を落とした木々の合間から、巣がいくつも確認できます。そうしたことから、境内の木々が鳥たちの子育ての場になっている様子がうかがえます。

境内の隅には小さな池がありますが、そこには毎年正月にサギがやってきて池の小魚を食べていきます。東側の石段脇には神前に供えるための米を育てる小さな稲田がありますが、夏の終わりにはスズメが実った稲穂を狙ってやってきます。

鎮守の森は住み家や隠れ場所を提供し、木の実などエサも豊富ですので、玉造界隈同様に上町台地の鳥の住宅街のようです。

※それぞれの談話、コメントは2007年12月時点のものです。

上町台地、緑と鳥の回廊マップ



※上空から確認できる特徴的な緑をドット(点)で表しています。



アドリ



カルガモ

上町台地で
出会うかもしれない
野鳥ミニ図鑑
(他頁掲載のものは省略)

野鳥写真提供：佐々木勇氏



ウグイス



アオサギ



ヒヨドリ



シジュウカラ



ムクドリ



トンビ



オオタカ



サンコウチョウ



カワセミ



コゲラ



マガモ



ユリカモメ



モズ



ツバメ

上町台地、NEXT21と日本野鳥の会

日本野鳥の会大阪支部

大阪平野の南北にのびる上町台地には、大小の緑が点在しており、いわば緑の回廊をなしています。ここNEXT21は、その緑の連なりの中に位置しています。

NEXT21の建設に先立ち、日本野鳥の会も協力して、周囲の植生や飛来している野鳥の状況を調査しました。その結果もふまえ、NEXT21の1階ガーデンや各階のテラス・屋上の植栽は、野鳥や蝶などの生き物呼び寄せ、羽を休ませる効果を考えたものとなりました。実際に、その後「キジバト」や「メジロ」もここで繁殖しました。

私たちの周りには多くの小さな生命が息づいています。耳を澄ませば、今しも鳥たちの声が聞こえてくるかもしれません。上町台地で暮らし、また時を過ごすとき、四季を通してさまざまな自然のメッセージが伝わってくるはず。NEXT21/U-CoRoの展示などを通し、地域に広がるこうした自然の息吹を一層身近に感じていただけたら幸いです。

日本野鳥の会 大阪支部
自然と人との共存を目指す自然保護団体、日本野鳥の会の大阪支部事務所は、NEXT21の1階にあります。
大阪市天王寺区清水谷町6-16 NEXT21 1階
TEL. 06-6766-0055 FAX. 06-6766-0056
事務所開館日：毎週火・金曜日 10:00~18:00 日曜日 13:00~18:00
※ただし(祝日・年始・年末・夏季)は休館。お問い合わせは電話・FAXで。
ホームページ <http://sun.gmob.jp/wbsj-osaka/>



スズメ

鳥の目線でNEXT21と
ご近所の緑をめぐるお散歩&屋上トーク

event & workshop

佐々木さんと江木さんにお話をうかがいながら、
上町台地の緑と鳥を求めて、まちをめぐるしました。



まち歩きの際に持って行った
野鳥観察チェックリスト

案内・おはなし：佐々木勇さん(日本野鳥の会大阪支部 副支部長)※
江木剛吉さん(アトリエE2代表取締役、NEXT21 緑地設計)
開催日：2008年4月28日 / 会場：NEXT21 近隣、NEXT21 屋上・ホール
主催：大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所(CEL) / 共催：日本野鳥の会大阪支部

NEXT21の屋上にある木の
幹に備え付けた巣箱に営巣
したシジュウカラを発見



巣箱から顔を出す
子育て中のシジュウカラ
(後日に佐々木氏撮影) 2008.4.28

※佐々木勇さんは、2008年6月にご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

Style 2 緑と鳥の回廊と水の縁をめぐる

日常の楽園 コミュニティグリーン

上町台地では、その歴史を物語るかのように、さまざまな暮らしを縁取ってきた多彩な樹木や緑地の姿が見られます。身近な緑との交わりは、上町台地に暮らす醍醐味のひとつ。ちょっとした道具を持って出かけてみると、またたく間に身近な緑は日常の楽園となって、私たちに、夢見る心や懐かしいときめきやおしゃべりの楽しみを惜しみなく与えてくれます。そこに、今を生きる人も、古に生きていた人も、時を越えてともに集って語り合えるような場、上町台地のコミュニティグリーンがたち現れてきます

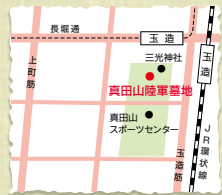
真田山陸軍墓地 2010年4月4日(日)晴れ

緑あふれる墓苑に花見弁当を持って出かけ

上町台地にある遠い日の戦争の記憶、真田山陸軍墓地。ここは日本の近代化の波に消えた戦士が一人ひとり眠る地。でも木々と草っぱらに包まれた空間は、長年にわたって地域の子もたちを育み、暮らしに緑の憩いも与えてきた。ご近所の人たちが花見に集まる満開の桜の下。家族や友と語り合う声を少し遠くに聴きながら、私たちが先人と一緒に盃を交わし、今の平和を喜び合った。



防人と桜花を愛でる和みの日



大阪府庁 2010年4月30日(金)晴れ

府庁本館屋上で緑化展示と絶景に見入ってから苦吟する

何やら毎日話題の大阪府庁へ、屋上緑化の見学に出かけていった。とても良く対応いただいた職員の方の「緑化もお勧めですけど、大阪城の眺めも絶景ですよ」との話を楽しみに。数々の緑化モデルに、都会の限られたスペースを緑化する人たちの知恵と工夫には感じ入った。そして、ちょうど目線の高さで向き合ったこれも初めての大阪城。初夏の西陽にきらめく天守や石垣に、知恵と工夫に輝いた藤吉郎の幻影を見た。



コミュニティグリーン 探訪日記



大岡に届けみどりの侘びと寂び



若葉堤川辺と川面に立つ青海波



八軒家浜 2010年4月28日(水)晴れ

今日は葉桜見える川辺に座ってボードゲーム

大阪の空は随分小さくなってしまった。20年くらい前までは大川を渡るとき、橋上からたくさん空が見えていた。青空、曇り空、雨空、夕焼け空。よく渡った天神橋と天満橋のあいだで、川岸がきれいに整備された。そういえば「水都」という言葉もよく耳にするようになった。川面や対岸の緑を眺めたり、行き交う船に手を振ったり、時には友とゲームをしたり。できれば、川岸の空も開けておいてもらいたいと思った。



春霞懐き遊具に少年を見ゆ



広小路公園 2010年4月30日(金)晴れ

ご近所の公園でちょっと童心に帰ってしまった

公園で遊んだのはいつ以来だったろう。中高生の頃は部活も忙しいので、公園はもっぱらおしゃべりの場所。通勤や通学のときにはそそくさとすり抜けたり。子どもが生まれて、久しぶりに公園で遊んだけれど、子どもの成長とともにまた距離が遠くなってしまった。今日はなぜか公園に誘われて、小さくなったブランコや滑り台を見ながら、木陰でちょっと童心に帰ってしまった。

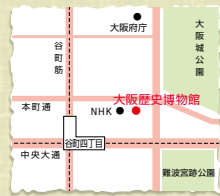
歴博南側広場 2010年4月30日(金)晴れ

オープン・スペースの木製デッキでおにぎりをごちそうになる

今日は天気も良くて、なかなかの日和だった。「おにぎりを作って持っていくから」と誘われて、日当たりの良い大阪歴史博物館南側の木製デッキでお昼ご飯。おにぎりを頬張りつつ、復元された高床式倉庫を眺めてしゃべっていると、悠久の昔はここが岬の突端だった話に行き着いた。古代の人たちも倉庫への荷物の出し入れ作業の合間に、このあたりでごはんを食べていたのだろうか。



薫風の米飯食う時に難の波



大阪商工会議所 2010年4月28日(水)晴れ

今日のランチは近くのビルの屋上庭園で

仕事の合間にちょっと逃避してしまうことがある。最近ではインターネットの航空写真で国内外へ気もそぞろ。大阪のまちを空から眺めていると空中庭園を見つかることもある。今日は天気も良いので、サンドイッチ片手にその一つへ行ってみた。これぞまさしく現実の逃避？ オフィス街の屋上に立ってみると、いつの間にもやら増えていく高層マンションという超高木の繁栄に目が覚めた。



昼餉する樹冠もかくす摩天楼



コミュニティグリーンを探して、花村周寛さんとまち歩き

アトリエ「フラット」前の公園
大規模マンションに隣接する小さな公園。今年も花見がされていた。アトリエにとっても重要な緑の空間。



緑橋の「燈」にて
前庭に植わる緑とその周囲の空間は、この場所にとって重要なメディアになっている。

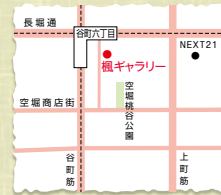
コミュニティグリーン 探訪日記



代々の想い樹に映えまちなちの庭



楓ギャラリー 2010年 4月11日(日)曇りのち晴れ
ギャラリーの庭でつい トランプを 楽しんでしまった
アートには縁遠い私だが、時折立ち寄るギャラリーはいつも心地よい。オーナーの心遣いもありたいが、古民家再生の先駆けでもある建物が醸し出す雰囲気も心とませてくれるのかも。特に屋外展示スペースにもなる庭は、まちなかで四季の移ろいも感じられる空間だ。たまには気が置けない人と訪れて、ゆっくりアートに触れてみるのも楽しいだろう。昭和のまちなちの音や家族の声が遠くに聞こえるかな。



暗越奈良街道の足下の緑
舗装の間に生える緑。人間が植えたものではない緑。



屋根に生えた緑
瓦の間に生えた緑。人の手が加わっていない緑だが、植物の生命感を感じる。

店先の屋根の緑
奇麗に屋根を作っている。これだけでその下に入りたくなる。



越中井 2010年4月30日(金)晴れ
越中井の井戸端で、抹茶でほっこりしてみた
子どもの頃から越中井は不思議な空間の一つ。石蓋で覆われた井戸、ガラシャという名の武将の妻、耶穌教ゆかりの地に建つお地藏さん、中央大通りから岬のように延びる濃い緑。子ども心には理解がむずかかった。彼女と彼女の時代を少しずつ知りながら、でもまだ不思議がたくさん残っている。いつもは通りすぎる碑の前で、久しぶりにゆっくり時間を過ごしてみた。点てもらったお茶をガラシャと嗜みながら。



狗節の玉へ献じる茶の香り

ジャングルジム
子どもの頃はあんなに大きかったのに、今はとても小さく感じる。



公園の緑
墓地の前の公園。少し入り隅になっている場所、道路がないのでほっとする。



並木道
同じ道ならば緑の空気を感ぜられる道を選んで歩きたい。

日常の暮らしのそばにある「緑のスペース」
一口に緑といっても、軒先園芸と公園のような場所では「緑の愛し方」が違うのではないかと常々思っている。軒先園芸の周りにはいつも座る場所がない。それは場所がないこともそうなのだが、緑を育てて、飾ることが楽しみ方のメインで、個人的な緑への関わりが目的としては大きいのではないかと。それに対して街角にあるようなちょっとした公園の緑はその空間に包まれながら、休んだり座ったりくつろいだりする楽しみ方だ。そしてその緑の空間を愛する他の誰かとの出会い、共有するのが楽しいのだと思う。
花村周寛(ランドスケープアーチスト)

comment



玉造稲荷神社 2010年5月3日(祝・月)晴れ
氏神さんの境内で子どもといなりずしを味わった
おととしから上町台地のみなさんと一緒に、伝統野菜「玉造黒門越瓜」と付き合いだした。その復興に力を入れる玉造の氏神様へ、境内東手の越瓜畑の様子うかがいにも通っている。夏の陽射しのなか、境内にたどり着くと、いつも木陰が一息つかせてくれる。そんな境内の一面にある緑のトンネルで子どもたちとお稲荷さんを頬張った。子どもの頃によくあった午後のちょっとしたいたずらな秘密を、久しぶりに感じられた。

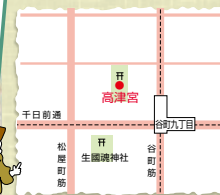


お稲荷さんと一緒に食べたしんげん

コミュニティグリーン 探訪日記



木浅れ陽と苗の音もれる春の宮



2010年 4月11日(日)曇りのち晴れ
高津宮・高津の富亭

富亭カフェで ゆっくりおしゃべり

鎮守の森ではよく遊んだ。それは田舎での思い出ではなくまちなかでの記憶。いにしへのまちの成り立ちを伝える社が、境内の木々と一緒に今もまちを見守っている。高津宮では境内にオープンしたカフェで、お茶をほっこり楽しんだ。身近な氏神様の境内では、散る花びらとともに知人の姿にもよく会える。時折聞こえる祝詞や雅楽に、大阪・上町台地の歴史と文化の深さを改めて感じながら。

コミュニティグリーンを探して、オダギリサトシさんとまち歩き



門の奥から猫がお出迎え?

天王寺駅にほど近い悲田院町界隈の路地にて少し道を折れると風情あるたたずまいの路地。片側が緑と花で埋め尽くされています。

庚申堂

朱塗りの門が木々の緑に映えています。



境内の奥まったところに石の座を発見。桜の木の下でしばし語りました。



清水井戸

水と緑は切り離せないもの。地藏尊の横には今も水をたたえた井戸が残っています。

坂を下っていくと突然大木が目の前に。



ビルとビルの間にあるご神木。立派な鳥居が建てられ、大切に祀られています。

上町台地南部で緑のオアシスを発見!

上町台地内での転居に伴い、日々の活動範囲が上町台地北部(空堀・大阪城・玉造周辺)から上町台地南部(四天王寺・天王寺・寺田町)へと移りました。それまで上町台地のことなら大体知っているつもりでいましたが、住んでじっくり散歩することで、新たな発見も沢山ありました。

その一つが、地域内の小さな木々。イメージ的上町台地の木々といえば、公園と大きな寺社、というものでしたが、街のあちこちに小さな緑を発見することができました。オダギリサトシ(大阪観光プランナー)

comment

NEXT21 2010年5月4日(祝・火)晴れ

マンション屋上で春の芋煮会としゃべり込んだ

面倒くさがるの私はバーベキューやホームパーティなどに縁が少ない。常にお客様なスタンスが災いしているのかも。そんな私だが、いつもは上がれないマンションの屋上にお酒と鍋で誘ってもらった。暮らしを重ねる居住者と専門家、そしてまちを吹く風に育まれた空中庭園は、鳥たちの憩いの場でもある。鍋をつつき、語っている間も、いくつもの鳴き声が飛び交っていった。

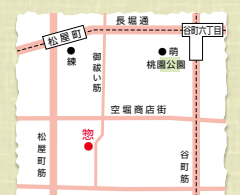


青葉濃い高き屋で食う夕の鍋

2010年4月15日(木)曇り時々雨

再生長屋の屋根に登って茶会に興じてみた

御祓い筋に面した「惣」は屋根の緑もおもしろい。商店街側からクランクに差しかかる時、そして正面の路地から振り返ったとき、お天気の良い日は屋根の緑が目に見える。「登ってみたい」というちょっと子ども心、ちょっといたずら心を持たせる屋根に上がった! 緑の絨毯に乗ってつかの間の空中散歩。中国茶をいただきながら深呼吸をすると、懐かしいまちが草の香りとともに漂っていた。



Style 2 緑と鳥の回廊と水の縁をめぐる

3

台地を潤す水の縁ふたたび

清水谷、細工谷、桃谷…。味原池、庚申池、毘沙門池…。利休井、越中井、梅の井…。数々の谷筋が刻まれ、大小の池が点在し、湧水に恵まれた、水の都の原点・上町台地。台地を潤す水脈が、緑を育み、人を呼び寄せ、いのちと生業を支えてきました。

古地図を手にまちをめぐれば、コンクリートに覆われたまちの深層に、今もその原風景が脈々と生き続けていることに気づかされます。移り変わる都市の風景のなかで、だからこそ人とまちとを大切につないでいきたいと願う水の縁が蘇ってくるようです。



上町台地界隈で水のスポット探訪

雨水を活用し防災広場



路地の広場は、人と人との交流の場
広場に面して住むRoji roomの松下岳生さん(左)と町会会長の浦野院次さん(右)

路地の広場で雨水は活かされ、まちの流儀が伝えられる

田島北ふれあい広場 中央区谷町7丁目

田島北ふれあい広場は、空堀通商店街から南へ入る坂道路地にあります。地元住民が2年近く話し合い、防災機能も兼ねた広場に再生されました。雨樋で集めた水をタンクに貯めて、手押しポンプで出せるようにすることで、文字通り井戸端会議の場となり、子どもたちの楽しい空間にもなっています。

からほり・路地奥田んぼ



路地の奥には、小さな田んぼが！ 田植えには、毎年地域の子どもたちが参加

トンネル路地の向こうに、穂の遊ぶ田んぼは、あった

和想デザイン 中央区谷町6丁目

和想デザインは路地奥にある緑のデザイン事務所。古い建物を事務所に再生するだけでなく、地元の人たちと路地も再生し、井戸跡を再掘削し、空き地を田んぼにするなど、小さな空間を憩える公空間へ変貌させています。夏の終わりには楽しい地蔵盆も。トンネル路地へ飛び込んでみてください。

古い井戸を再掘して水場づくりも
和想デザインの信原宏平さんと傳野貴敏さん(右)



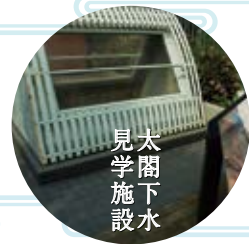
金明水井戸

大阪城天守閣への石段脇にある重要文化財の井戸屋形。太閤秀吉が黄金を沈めたという伝説も持ちますが、寛永3(1626)年創建と判明しています。



越中井

その名は屋敷跡伝承がある細川越中守忠興に由来する、小さな緑の島にある井戸。殉節した忠興の妻ガラシャゆかりの地でもあります。



見太学閣地下設水

南大江小学校西堀脇の三角ガラスを覗けば、水が流れる石垣下水。そのもとは豊凶期ともいわれる水路は、400年後の今も現役です。



北大江公園
風、鳥、青葉、靴、緑陰に木魂を聴く



中大江公園
独りであつても、藤棚はその下を過ぎた先人を映す



谷町庭
大きなビルに囲まれた、小さなビル上の畑を、風は通る



上町台地界隈 緑のスポット



銅座公園
枝葉が影成すベンチに、楽しき幻影を見た



榎木大明神
榎木の坂に人氣が絶えた一瞬、樹梢と合ふ



妙徳寺
足下の花びらに、天井の桜華が透ける



愛染堂勝院
人は生命の先輩に、現代も抱かれ続ける



府立特許情報センター
裏通りの少し高い目線に、秘密の花園は、あった



大江神社
緑の隧道、都市のなかに確かにある結果



口繩坂
午後の坂の木々は優しい、セイセイと登る人へ



應典院
緑が浄土へ導き、現世へ還す、まさに



御勝山公園
緑が織りなす陰と陽、静と動、望と人へ

緑橋界限・旧千間川跡

千間川跡の一部は、今も遊歩道として残されている



川跡に建つ「千間川と緑橋」の碑



70年前の写真と同じ位置に立つ加瀬さん。橋はもうないが、後方の民家は町家再生複合施設「燈」として今も残る

千間川沿いで生まれ育った加瀬敏夫さんに、幼い頃の川の思い出をうかがった



台地の東成る地、水の都は、そこにもあった

千間川と緑橋の碑 東成区東中本1丁目

船場・堀江の堀川跡はよく知られていますが、上町台地東側の堀川跡はあまり知られていません。旧千間川はその一つ。農業用排水や物資運搬などの役目を長く担った川は、昭和47(1972)年に埋め立てられました。川跡は緑多い道路になりましたが、緑橋や深江橋といった地名に、川の記憶が今も宿っています。

高津宮・「梅の井」と「梅の橋」



「梅の橋」の上で、高津宮の小谷真功さんとお話を伺った。かつて、この下を梅の川が流れ、付近は梅の名所だったという



江戸時代、梅の川のほとりにあったという名水「梅の井」の井桁。今は高津宮境内に移設保存されている。

鎮守の森に潜む、台地の谷の記憶

高津宮 中央区高津1丁目

高津宮への表参道は高津公園を縦断しています。その参道脇に文政2(1819)年と刻印された梅の井の井桁、明和年間(1768年頃)に奉納されたと伝わる梅の橋、そして梅の川の名残を留める池跡があります。春は花見、夏は虫取り、秋は紅葉と都会のなかで季節を味わえる空間からは、せせらぎの音も漏れ聞こえそうです。

圓妙寺・台地に息づく水の寺

高津宮の小谷真功さんにご案内いただき、水の寺を訪問。谷への階段を降りると、ひとつ目の井戸が



圓妙寺の深川観澄住職(左)に導かれ、さらに奥の井戸へ。高津宮の茶会にもこの寺の水が使われたという

水の寺、高台の寺は、そう尊ばれる

圓妙寺 中央区中寺2丁目

上町台地の寺町の一つ、中寺。南北に貫く道はなだらかですが、その両側は台地西斜面の地形豊かです。堀越しに見える鐘楼が印象的な圓妙寺には、水の寺の由来でもある井戸が、今も現役です。手押しポンプから溢れ出る水は、代を重ねる若い参詣者にも、水の寺のイメージを与えていることでしょう。

玉造稲荷神社・利休井再生



「利休井」は、本殿前に埋もれていた井戸を再掘したもの、案内していただいたのは玉造稲荷神社の鈴木伸廣さん(左)



昔近くを流れていた猫間川の浚せつ工事記念碑(天保9年)

境内に沈んだ井戸は、時を超え、人を誘い、甦る

玉造稲荷神社 中央区玉造2丁目

玉造稲荷神社の本殿前に利休井(りきゅうい)があります。豊臣家や大坂城と縁の深い神社の境内は、茶人・千利休の屋敷伝承地でもあります。上町台地に湧き出る清水は、次代を切り開いた先達にもさぞ好まれたことでしょう。井戸は2006年に有志によって再生され、先達の名を冠して住時(すむじ)を偲ばせています。



古図にも描かれている白龍池、雨乞いに靈験有りと伝えられる

台地の水は、龍神から酒神へ、町衆の手で

服部商店 天王寺区東上町

天王寺区内の酒屋有志の集まり「原点の会」。四天王寺境内と上六近くにも湧く井戸水をもとに、15年近く前から「上町乃水」、「天水」と名付けた酒造りを続けています。上町台地のまさに地酒として、密かにファンを増やしています。原点の会メンバーのお店や近鉄百貨店上本町店で購入できます。

「上町乃水」は上町台地の地下水を使ったお酒



オリジナル酒をつくった原点の会の中心メンバー服部多嘉男さん(中央)

原点の会・「上町乃水」と「天水」



四天王寺 亀井堂

四天王寺の地下深くにあるとされる伝説の青龍池。その池水が源といわれる亀井の水には、故人を偲ぶ人々が「経木流し」に集います。



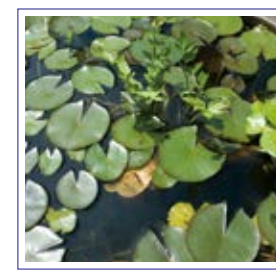
河底池

茶臼山の南、天王寺公園内のこの池は、和氣清麻呂による奈良時代末期の堀の開削跡ともいわれます。池に架かる橋名も和氣橋です。



玉出の滝

清水坂南脇の清水寺境内に流れ落ちる三條の滝は玉出の滝。21世紀のまちなかで、時には滝に打たれる行者の姿を目にすることもあります。



上町台地界隈で水のスポット探訪



清水の井戸

庚申堂そばの四つ角にひっそりとある井戸は、名水・谷の清水。ご近所使用の井戸は、ポンプアップになりましたが、現役です。



産湯清水

産湯稲荷神社の参道脇にある井戸屋形。ご祭神の大小橋命の産湯に用いたという伝承があります。付近一帯は味原池跡でもあります。



天神坂

天王寺七坂の一つの天神坂。坂下近くの流水施設は、台地の湧水イメージを醸し出す修景施設です。近くには安居の清水の安居神社も。



金龍の清水

清水坂下近くの泰聖寺。その境内の釣瓶もある井戸は、天王寺七名水*の一つ金龍の水。湧っていた井戸は復元されています。

*天王寺七名水: 亀井・逢坂・玉手・安井(安居)・増井・有栖(土佐)・金龍

上町台地 幻の川めぐり

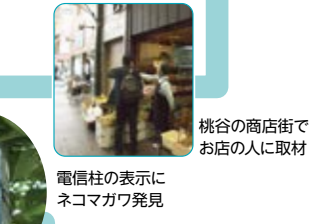
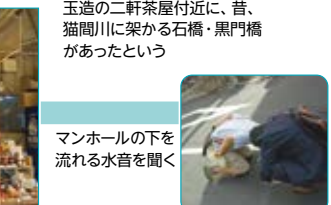
ねこま 猫間川! 探索行

オダギリさんと猫間川探索に出発

オダギリ・サトシ(大阪観光プランナー)
 「猫間川を散策しましょう!」そう誘われ、即答した。「何もないから面白くないですよ〜」。ところが散策当日、その先入観が音たてて崩れていった。ええ歳の男女4人が、古地図を片手に街をキョロキョロ、時にはマンホールを覗き込み、地元の人からすれば「変な人」以外の何者でもない3時間のショートトリップ。確かに何も無い。しかし、何もないところから「川」があったことの片鱗を見つけた時は、山根徳太郎(※)の気持ちがわかった気がした(大笑)。
 (※)難波宮の研究を行い、大極殿跡を発掘した人物。



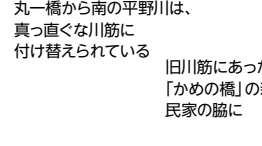
JRの森ノ宮電車区画を北進して、猫間川の名を残す施設に至る



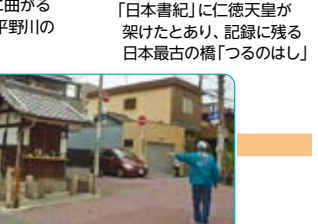
上町台地 幻の川めぐり

旧平野川跡を行く

足代さんの案内で玉津橋から南へ



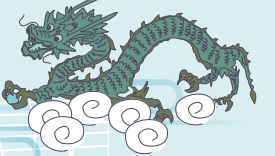
足代健二郎(郷土史家)
 上町台地の裾野、生野区西部がかつて蛇のように曲がりくねりながら北流していた旧平野川は、遠い昔には百済川と呼ばれていたという。この川筋は大正時代に直線状に付け替えられて、新平野川とも平野運河とも呼ばれる、市街地の中のただの水路に変貌した。
 かつての百済川の流域「百済野」の地は、折口信夫(歌人・釈道空)が多くの歌に詠んだのどかな田園地帯であった。その古い流路の跡は今でも所々に風情を残している。



上町台地 水先“地理”案内



「水都」といえば、だれもが思うのは中之島あたりや道頓堀など、上町台地の西側。しかし、台地上や台地東側にも「水都」だった名残があちこちにあります。地形をたどって、台地やその東手にも、まちなかの水遊びへ出かけてみてください。



猫間川 ~今も足下を流れる、知られざる川

猫間川は上町台地のすぐ東、JR大阪環状線沿いを北流する小河川です。清水谷や細工谷、桃谷といった台地東斜面の谷の流れも、すべて猫間川に集まっていた。古地図の川筋をたどれば、阿倍野区文の里付近まで遡れます。豊臣大坂城では東懸構堀として防衛ラインの役目も果たしていました。現在は暗渠化され、地上部は道路になっています。川の名の由来も暗渠化の時期もよく分からない不思議な川は、今も人知れず、北流しています。

平野川 ~悠久の時を刻む、なにわの小大河

現在の平野川は、柏原市内で大和川から分派し、八尾空港や平野郷のそばを過ぎ、生野区林寺6丁目付近から北流する、流路延長17.4kmの川です。大和川付け替え前はJR八尾駅付近で、旧大和川から分かれていたようです。生野区内では大正期に河道の直線化が進み、昭和38(1963)年には東に1kmほどのところを同じく北流する、平野川分水路も設けられました。近年、川と再び戯れようとする人々と、新たな歴史を刻みはじめています。

幸念寺・上町台地西麓の井戸

寺の井は、
現と彼岸を、満たす

幸念寺 天王寺区下寺町2丁目

上町台地には城南寺町や中寺、生玉寺町など、いくつもの寺町があります。台地西麓に連なるのは下寺町。その寺院群のなかにある幸念寺には、今も二つの井戸があります。冬温かく、夏冷たい井戸の水は、参詣者の心を和ませるだけでなく、災害時には避難者の命をつなぐ役割も期待されています。



上町台地西麓の井戸は今も水量豊か。柴田尚弘住職にご案内いただいた



お墓参りに訪れる人たちは、井戸で汲んだ水を携えていく

五條界限・毘沙門池跡

五條宮にある毘沙門池の碑。石垣の向こうが池で、ここから釣りもできたという



台地の上で多くの水をたたえていた毘沙門池
〔大阪市天王寺財産区誌より〕



五條宮の太田敬三さんに
毘沙門池に関する資料を
見せていただきながら、
お話を伺った

台地の池は潤した、
往時のみどりも、人の心も

毘沙門池跡 天王寺区真法院町

桃谷と称される谷筋を登ると、毘沙門池はありました。五條宮や寿法寺の境内は、その池畔にあったと言われます。なかでも紅葉寺とも呼ばれる寿法寺は、池越し見れば、淡く映ったかもしれません。池は昭和2（1927）年に埋め立てられ、区役所と五條宮の脇に立つ記念碑が記憶を伝えていきます。

木野村・家々に生きる井戸

井戸と寄りそう旧村は、
漂う、都市化の海原を

旧木野村 生野区桃谷2丁目界限

生野区桃谷2丁目の大部分を占める旧木野村。中心に在している弥栄神社をめざせば、村に出会えます。郊外の農村風景も伝える旧家、路地のある長屋には、今も現役の井戸がいくつもあります。ご近所さんとスイカを冷やした光景は、思い出となりましたが、水やりや生業に、井戸水が活かされています。



飯田郁子さん(左)にご案内いただき、
旧木野村の旧家、飯田邸の井戸を見せていただいた



庭の井戸はもう使われていないが、もう一つある井戸の水は今も水やりなどに使われている

澤田孝治さん宅の庭にある井戸は、今も暮らしの中で活用されている



蓋をあけると数メートル下に豊かな水

〔上町台地 水先案内〕 まち歩き 上町台地の水あとをたどる

event & workshop



玉造稲荷神社の
利休井を拝見



和想デザインさんの
路地奥の田んぼは、
そろそろ収穫の時期



高津宮では小谷宮司にご案内いただきました

上町台地に残されている、水あとをたどるまち歩きイベントを開催。移り変わる都市風景のなかで、上町台地の深層を流れる水と地域の人のつながりに触れました。

開催日：2011年10月1日

U-CoRoから出発し、空堀界限～中寺～高津宮

主催：大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所(CEL)

2011.10.1